

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	生理学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.肺におけるガス交換と血液によるガスの運搬について説明できる。 2.腎臓の構造と役割を説明できる。 3.血漿pH調節の意義と緩衝系について説明できる。 4.消化管の各部位における消化メカニズムを説明できる。 5.ホルモン分泌の調節メカニズムを分類して説明できる。			評価方法 定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	正常な人間に起こる各組織の働きとして、まず生命現象の基本としての細胞機能と生体内の情報伝達機構を教授し、次いで、植物機能と動物機能を系統別に講義する。						
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 生理学第5版(医学書院)	使用器材	パソコン等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	心臓と循環(P102～P107)	A血液の循環 B心臓の興奮と刺激伝導系 C心電図					
第2週	心臓と循環(P109～P115)	D血液の拍出と血圧 E心周期					
第3週	心臓と循環(P115～P121)	F前負荷・後負荷と収縮性 G心機能曲線 H心機能曲線					
第4週	心臓と循環(P122～P127)	I 微小循環と物質交換 J静脈還流 K臓器循環 Lリンパ循環					
第5週	呼吸とガスの運搬(P131～P137)	A外呼吸と内呼吸 B気道と肺胞 C呼吸運動 D呼吸気量					
第6週	呼吸とガスの運搬(P137～P142)	Eガス交換とガスの運搬 F呼吸の調節 G病的呼吸					
第7週	尿の生成と排泄(P144～P148)	A腎臓の役割 B腎臓の構造 C尿の生成					
第8週	尿の生成と排泄(P149～P153)	Dクリアランス E排尿 F尿の性状と排尿の異常					
第9週	酸塩基平衡(P155～P158)	A血漿のpH調節 Bアシドーシスとアルカローシス					
第10週	消化と吸収(P159～P164)	A消化器の役割 B口腔内消化と嚥下 C食道における食物輸送 D胃の役割と消化					
第11週	消化と吸収(P164～P167)	E十二指腸における消化 F空腸・回腸における栄養素の吸収					
第12週	消化と吸収(P168～P170)	G大腸の役割 H肝臓の役割					
第13週	内分泌(P172～P174)	A内分泌機能とホルモン					
第14週	内分泌(P178～P185)	B各腺から分泌されるホルモンの作用					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	国家試験基礎分野での重要な科目であり、復習を必ず行い資料を整理しておくこと。						

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	運動学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	大川 照明	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 体幹・顔面の筋をそれぞれの運動と共に学び、臨床医学に結び付けて行く。 2. 姿勢の力学を学ぶことにより日常生活動作での転倒予防の基礎知識を身につける。 3. 歩行の基礎知識及び歩行分析による筋活動等の知識を修得する。 4. 姿勢制御理論、運動制御理論および運動学習理論が理解できる。 5. 生体力学を学び関節及び筋の作用との関連が理解できる。			評価方法 定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	基礎的知識としての解剖学・生理学をベースに、人間の運動を理解統合する為に、運動処方・姿勢・歩行と歩行及び動作分析を実習を通して理解し、臨床に結びつく実践の知識として学ぶ。						
教科書等	15レクチャーシリーズ運動学(中山書店)	使用器材	パソコン等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション 運動学Ⅰまとめ ◎運動学Ⅰの範囲を確認すること						
第2週	頸椎	◎ポイント:頸椎の構造と運動					
第3週	胸椎・胸郭・腰椎の運動	◎ポイント:胸椎・胸郭・腰椎の構造と運動					
第4週	呼吸運動	◎ポイント:呼吸に関する運動学的観察					
第5週	顔面及び頭部の運動	◎ポイント:顔面の筋・頭部・下顎の構造と運動					
第6週	姿勢	◎ポイント:重心 ◎ポイント:姿勢の異常					
第7週	歩行と歩行 その1	◎ポイント:運動学的分析					
第8週	歩行と歩行 その2	◎ポイント:運動学的分析実習					
第9週	階段と踏み台の昇降	◎ポイント:運動学的分析実習					
第10週	運動と動作分析	◎ポイント:モーションキャプチャー					
第11週	体力と運動処方 その2	◎ポイント:運動処方実習					
第12週	生体力学の基礎 その1	◎ポイント:身体とてこ					
第13週	生体力学の基礎 その2	◎ポイント:モーメント 運動法則					
第14週	生体力学の基礎 その3	◎ポイント:仕事とエネルギー					
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、講義内容を同日中の内に振り返ること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	精神医学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 精神科の疾患について理解することができる。 2 精神科作業療法で関わることが多い統合失調症について知識を理解できる。 3 作業療法における精神疾患との関わり方を理解することができる。 4 精神病患者の生活能力障害について理解することができる。			評価方法			
授業概要	精神医学とは何か。精神障害者を理解するために、精神疾患と精神症状を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	現代臨床精神医学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	精神医学概論と基礎知識(精神科の病)について。オリエンテーション						
第2週	精神医療とは何か 精神医学の概念について学ぶ(歴史的背景を踏まえて)						
第3週	症状の成り立ち(外因・内因・心因について学習する)。また心身相関について学習する。						
第4週	睡眠と覚醒のリズムについて学習する人体における睡眠の必要性						
第5週	精神療法について(筋肉応答法含む)精神科臨床場面において果たす役割について学ぶ。						
第6週	精神科における薬物療法の作用と副作用について学ぶ。(発展した歴史的背景含む)						
第7週	統合失調症について概念、歴史、疫学、成因について学ぶ。						
第8週	統合失調症の経過について症状の推移について学ぶ。(予後も含む)						
第9週	統合失調症の治療について。基本方針、治療の概略について学ぶ。						
第10週	統合失調症におけるリハビリテーションの概要について学ぶ。						
第11週	統合失調症まとめ。アウトプットを繰り返し、知識の定着を図る。						
第12週	外因性精神病について(認知症の概要、中核症状、周辺症状とは)学ぶ。						
第13週	自らの精神保健(治療者自身のメンタルヘルスの重要性)						
第14週	期末試験対策を実施する。						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義に参加する前は、事前に配布したスライドに目を通すこと。また、復習は適宜行い、知識の習得を目指すこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	集団作業療法治療学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	精神科・老年期病院勤務歴14年	担当者	松尾 賢	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法場面における集団の活用と効果について理解できる。 2 集団を活用することによるグループダイナミクスについて理解できる。 3 集団を治療に活用する醍醐味を理解できる。 4 集団の中でリーダーを体験し、人を動かす難しさが理解できる。			評価方法			
授業概要	作業療法における治療方法の一つであるグループダイナミクス(集団力動)の応用について、集団を治療に活用する基礎的な知識を理解し学習する。集団体験としてのグループ活動や演習など様々な活動の体験を臨床に活用できる実践力を養う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ひとと集団・場 第2版 三輪書店	使用器材	配布資料その他演習に必要な用品				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	イントロダクション: 作業療法の方法としてのグループダイナミクス(集団)の活用						
第2週	1、集団・場: ひとの集まりとしての集団(集団意味、構造)について理解する。						
第3週	2、ひとと集団: 社会の中での集団の意味・目的について理解を深める。						
第4週	3、生活技能と集団: 生活技能、対人発達技能の発達における集団の役割について学ぶ。						
第5週	4、集団の利用: 集団と療法～効果(治療のける集団の活用と効果)について理解する。						
第6週	4、集団の利用: 構造を理解し、専門職として必要に応じ、集団を活用することを学ぶ。						
第7週	5、パラレルな場とその活用(パラレルな場を治療に活かす意味)について学ぶ。						
第8週	6、作業療法と集団・場(対象者に合わせた意図的な場の活用)について学ぶ。						
第9週	7、集団プログラムの計画と評価について理解を深める。						
第10週	8、作業療法における集団プログラムの実際 I						
第11週	作業療法における集団プログラムの実際 II						
第12週	グループワーク I(フィードバックを行い、改善是正を目指す。)						
第13週	グループワーク II(他者のプレゼンに対して、建設的な討論が出来ることを目指す)						
第14週	総括(講義の振り返り要点のまとめ、期末試験対策)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義の中ではプレゼンも実施します。能動的かつ積極的に参加をすることを期待します。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 筋の種類とその作用を説明できる。 2. 筋の起始 と停止、作用を説明することができる。			評価方法			
授業概要	解剖学は、人体の正常な形態と構造を理解する分野である。解剖学が正常体の形状を研究するのに対して、その機能を扱うのが生理学であるが、解剖学と生理学の境界はないとも言われている。医学の基礎知識として重要な分野となる。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	使用器材	骨標本、PC等映写				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	筋系総論1 P.164～						
第2週	筋学総論2 P.171～						
第3週	体幹の筋 頭頸部の筋1 P.178～						
第4週	体幹の筋 頭頸部の筋2 P.178～						
第5週	体幹の筋 胸部・腹部・背部の筋1 P.184～						
第6週	体幹の筋 胸部・腹部・背部の筋2 P.184～						
第7週	上肢の筋 上肢帯の筋1 P.196～						
第8週	上肢の筋 上肢帯の筋2 P.196～						
第9週	上肢の筋 上腕・前腕の筋1 P.198～						
第10週	上肢の筋 上腕・前腕の筋2 P.198～						
第11週	上肢の筋 手の筋1 P.207～						
第12週	上肢の筋 手の筋2 P.207～						
第13週	下肢の筋 下肢帯の筋 P.211～						
第14週	下肢の筋 大腿・下腿の筋 P.211～						
第15週	下肢の筋 足の筋 P.224～						
授業外 学習指示等	授業を理解するために、基礎固めヒント式トレーニング(基礎医学編)の該当ページを必ず復習すること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	解剖学Ⅳ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	三好 和則	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①呼吸器、循環器、消化器、泌尿器の構造と機能について理解できる。 ②各器官における生理学的な反応を理解できる。 ③運動における呼吸循環系の役割を理解できる。			評価方法			
授業概要	医学系専門職として作業療法を学ぶ上で基礎となる、生命の維持に非常に重要な働きをもつ呼吸器と循環器や、消化器、泌尿器の構造と機能についての知識とその役割を学び、生体内で起こる生理学的反応への考察力を高めることを目的とする。さらに運動における呼吸循環系の役割に対する理解を深めることも目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版	使用器材	PC等、臓器模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	内臓器官の基本構造 P.333～						
第2週	循環系1 P.335～	血管系					
第3週	循環系2 P.337～	心臓					
第4週	循環系3 P.341～	動脈系					
第5週	呼吸器系1 P.360～	鼻腔・咽頭・喉頭					
第6週	呼吸器系2 P.366～	気管・気管支・肺					
第7週	消化器系1 P.370～	口腔・咽頭					
第8週	消化器系2 P.373～	食道					
第9週	消化器系3 P.373～	胃					
第10週	消化器系4 P.375～	小腸・大腸					
第11週	消化器系5 P.378～	肝臓					
第12週	消化器系6 P.380～	膵臓					
第13週	泌尿器1 P.384～	腎臓					
第14週	泌尿器2 P.386～	尿管・膀胱					
第15週	リンパ系(2) P.355～						
授業外 学習指示等	臨床における基礎知識であり、国家試験でも多く出題されます。授業後の復習が重要です。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	一般臨床医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 医療職として必要な医学一般に関する知識を修得する 2 医療職として必要な基礎医学用語を理解する 3 医療職として必要な基本的技術を習得する 4 身体各部位に関する基礎医学的知識を修得する			評価方法			
授業概要	厚生労働省の示しているPT・OTの卒前教育として指示されている「一般臨床医学」の基礎的知識を理解する。具体的には、心肺蘇生をはじめとする救急医療、外科及び脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科における代表的疾患の病態と標準的な治療法を学習する。また、老年医学についても学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための一般臨床医学	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	救命救急医療(教科書第1章 P1~P2)						
第2週	救命救急医療2(教科書第1章 P2~P11)						
第3週	外科総論1(教科書第2章 P13~P17)						
第4週	外科総論2(教科書第2章 P17~P21)						
第5週	脳神経外科概論1(教科書第3章 P23~P29)						
第6週	脳神経外科概論2(教科書第3章 P29~P30)						
第7週	脳神経外科概論3(教科書第3章 P30~P33)						
第8週	皮膚疾患1(教科書第4章 P35~P46)						
第9週	皮膚疾患2(教科書第4章 P46~P56)						
第10週	泌尿器・生殖器疾患1(教科書第5章 P57~P63)						
第11週	泌尿器・生殖器疾患2(教科書第5章 P63~P73)						
第12週	婦人科・産科・眼疾患(教科書第6、7章 P75~P104)						
第13週	耳鼻咽喉科疾患(教科書第8章 P105~P117)						
第14週	老年医学(教科書第9章 P119~P121)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	講義の最後に確認問題を実施する。確認問題は必ず復習を行うこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	リハビリテーション栄養学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 作業療法士に必要な生物学、化学、栄養学の基礎知識を修得する。 2 実践的なリハビリテーション栄養学の基礎知識を修得する。 3 作業療法士に必要な栄養アセスメントの知識を修得する。 4 作業療法士に必要な摂食嚥下に関する知識を修得する。			評価方法			
授業概要	生物学と化学をベースとして、栄養学の基礎知識を理解する。そして、実践的なリハビリテーション栄養学の知識を修得する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハベーシック 生化学・栄養学	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	なぜ生化学・栄養学を学ぶのか (教科書 第1章 P8～P14)						
第2週	生化学・栄養学に必要な基礎化学 (教科書 第2章 P16～P22)						
第3週	蛋白質とアミノ酸 (教科書 第3章 P24～P30)						
第4週	酵素・ホルモン (教科書 第4章 P32～P38)						
第5週	糖質・脂質の代謝 (教科書 第5章 P40～P46)						
第6週	ビタミン (教科書 第6章 P48～P54)						
第7週	消化と吸収 (教科書 第7章 P56～P62)						
第8週	エネルギー代謝 (教科書 第8章 P64～P70)						
第9週	運動と栄養 (教科書 第9章 P72～P78)						
第10週	リハビリテーションと栄養 (教科書 第10章 P80～P86)						
第11週	栄養評価 (教科書 第11章 P88～P94)						
第12週	主な病態の栄養管理 (教科書 第12章 P96～P102)						
第13週	静脈・経腸栄養法 (教科書 第13章 P104～P110)						
第14週	栄養と摂食嚥下 (教科書 第14章 P112～P118)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	講義の最後に確認問題を実施する。適宜復習を行うこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	作業療法評価学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院、地域医療での勤務14年	担当者	樋口 浩幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 作業療法士に必要な評価を理解する 2 作業療法士に必要な評価技術を習得する 3 作業療法士に必要な器材の使用方法を理解する 4 作業療法士に必要な記録方法を理解する			評価方法			
授業概要	作業療法士に必要な評価能力を身につけるため、検査意義や一連の流れを踏まえ身体機能における基本的な知識と検査技術について解説および実技指導する。			期末試験 80% レポート 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学	使用器材	配布資料、メジャー、打腱器、ストップウォッチ、人体模型等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	形態測定①(講義、実技)(教科書 P65～P71)						
第2週	形態測定②(講義、実技)(教科書 P65～P71)						
第3週	感覚検査①(講義、実技)(教科書 P114～P129)						
第4週	感覚検査②(講義、実技)(教科書 P114～P129)						
第5週	反射検査①(講義、実技)(教科書 P130～P137)						
第6週	反射検査②(講義、実技)(教科書 P130～P137)						
第7週	筋緊張検査(講義、実技)(教科書 P151～P159)						
第8週	姿勢反射・バランス検査①(講義、実技)(教科書 P138～P150)						
第9週	姿勢反射・バランス検査②(講義、実技)(教科書 P138～P150)						
第10週	協調性検査(講義、実技)(教科書 P160～P167)						
第11週	脳神経検査(講義、実技)(教科書 P168～P183)						
第12週	摂食・嚥下機能検査(講義、実技)(教科書 P184～P193)						
第13週	上肢機能検査(講義、実技)(教科書 P204～P212)						
第14週	疼痛検査(講義、実技)(配布資料)						
第15週	QOL、興味、役割の評価(講義、実技)(教科書 P241～P255)						
授業外 学習指示等	作業療法において、治療・指導・援助の根拠となる検査・測定である。知識と理解、技術習得に必要な取り組む姿勢が求められる。事前の学習、習得したことは、普段でも繰り返し練習をしておくこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	井ノ口 征幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1:リハビリテーション医学の変遷、歴史、現状についての理解 2:臨床医学お発展と障害学についての理解 3:リハビリテーション臨床の主な疾患について治療からリハビリテーションまでの流れの理解			評価方法			
授業概要	リハビリテーション医学に携わるプロとして、その変遷、概要、各種障害、疾患のリハビリテーションの流れ等を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準 リハビリテーション医学	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	リハビリテーション医学とは (理念の変遷)						
第2週	障害学						
第3週	脳血管障害 ①						
第4週	脳血管障害 ②						
第5週	脊髄損傷 ①						
第6週	脊髄損傷 ②						
第7週	脊髄小脳変性症						
第8週	パーキンソン病						
第9週	脳性麻痺						
第10週	筋ジストロフィー						
第11週	末梢神経損傷・多発性筋炎						
第12週	多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症						
第13週	関節リウマチ・変形性関節症						
第14週	二分脊椎その他						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	各自疾患ごとに復習をしてください。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	病理学/内科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	井ノ口 征幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.:病理学総論において各項目ごとの用語と内容の理解 2.:各内科疾患の経過と治療の理解 3.病理内科における国試問題への取り組み			評価方法			
授業概要	国家試験出題基準内容及び臨床場面で必要な知識を学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準PT学・OT学 専門基礎分野 病理学及び内科学	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	病理学総論 : 病因論、退行性病変						
第2週	病理学総論 : 進行性病変						
第3週	病理学総論 : 循環障害						
第4週	病理学総論 : 免疫・炎症・感染症						
第5週	病理学総論 : 腫瘍						
第6週	病理学総論 : 先天性異常・奇形						
第7週	病理学各論 :まとめ						
第8週	循環器疾患 I 循環器疾患						
第9週	呼吸器疾患 I 呼吸機能と閉塞性換気障害他						
第10週	消化器疾患 I 消化器解剖と上部消化管疾患						
第11週	肝・胆・膵疾患 肝疾患と肝機能/代謝性疾患						
第12週	内分泌疾患						
第13週	腎・泌尿器疾患						
第14週	感染症疾患 遺伝性疾患						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	国試問題を項目ごとに提示しますので各自で解いてみる。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	基礎作業学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院での勤務経験20年	担当者	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 作業療法の「手段」「目的」である「作業」について活用の仕方を理解できる 2. 「作業」を体験し身体・精神機能、社会参加について分析する力をつける 3. 作業療法士は、対象者を1人の人として捉え援助する。臨床の知(クリニカルリレーズニング)について理解し活用できる			評価方法			
授業概要	作業療法士が「作業」について学ぶことは、職業生命の基礎である。基礎知識を学び演習等を通じて臨床へ活用できる技術を修得する。作業が対象者の「健康」や「主体的な生活の獲得」へ貢献できることを理解し、作業適応と治療実践について学ぶ			期末試験 80% レポート・学習態度など 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ひとと作業・作業活動 三輪書店	使用器材	視聴覚機器・配布資料その他演習に必要な用品				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	イントロダクション:生活の回復、再建がなされる「作業」について学ぶ。 配布資料:当事者からみた作業療法の魅力						
第2週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について生活行為マネジメントの自己活用						
第3週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について生活行為マネジメント用いて演習						
第4週	1 作業とは: 定義と分類 生活の中で目的や意味を持って行われる作業について作業療法での生活行為マネジメントの用いられ方						
第5週	2 ひとと作業: 「作業」を生活、脳、身体、こころ、コミュニケーションなど切り口から、人にとっての作業とは、目的と意味を持って行われる作業をみる視点を学ぶ						
第6週	3 作業の知: 作業そのものの特性や意味、ひとが作業をすること、効用について、ケース「作業療法とあきらめかけていた趣味の再開」ワークシートを通して学ぶ						
第7週	3 作業の知: 「作業療法とあきらめかけていた趣味の再開」ワークシート発表 「作業のアフォードするもの」について学ぶ						
第8週	6 作業の技: 治療や手段としての作業の利用、作業の選択、「ことばと作業」の活かし方、対象者と治療効果を高める作業療法士との関わり方について学ぶ						
第9週	7 技を育む: 作業が生きる条件—作業療法士自身の治療的活用 クリニカルリレーズニングとは何か学ぶ、治療場面で演習						
第10週	5 作業を分析する: 「作業演習 ①」 身体的・認知機能や心理的、社会的関係など分析する						
第11週	5 作業を分析する: 「作業演習②」 身体的・認知機能や心理的、社会的関係など分析する						
第12週	8 作業分析: 動作分析(ADLをはじめ生活動作を分析する手法) 利き手交換(書字)、片麻痺での更衣動作演習						
第13週	8 作業分析: 動作分析(ADLをはじめ生活動作を分析する手法) 動作分析: DVD脳卒中(重度片麻痺、感覚障害、半側空間無視、注意障害)						
第14週	全体総括: 作業療法の視点として「人・環境・作業」モデルを学ぶ 試験対策						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	作業療法士は対象者の個性にあわせて、様々な問題と一緒に取り組んで解決していくことが求められます。 座学はもちろんのこと、課題に主体的に取り組み、行動する習慣を身につけましょう						

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	公衆衛生	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	小淵 由美子 印	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 多様な公衆衛生活動があり「健康」が守られていることを理解する 2. 環境問題や各分野に特有な課題に対応する具体的活動について知識を深める 3. 身近にある健康問題に関心を持ち、積極的に情報収集し行動することができる			評価方法			
授業概要	人の健康を守る保健医療活動である公衆衛生の基本的な知識を学習する。今後、社会の変化に伴い変化する公衆衛生活動を作業療法士として活用できる視点と能力を培う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	わかりやすい公衆衛生 ヌーベルヒルツ	使用器材	配布資料・その他				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	1. 公衆衛生とは:「みんなの健康を、みんなで守る、保健医療の組織的な営み」と定義されている。健康には多くの要因が関係しており公衆衛生の広がりについて学ぶ。						
第2週	2. 健康と環境、疫学的方法:人の健康に影響する要因と、集団検診と集団の健康事象について扱う疫学の重要性について学ぶ						
第3週	3. 健康の指標:集団の健康水準を測定する尺度の総称であり、良く使用されているものについて指標の意味するもの、見方などについて学ぶ。						
第4週	4. 感染症とその予防:感染症の成立要因と伝播様式を理解し、その発生予防や蔓延防止の方策について学ぶ。代表的な感染症について流行状況や感染予防対策を学ぶ						
第5週	5. 食品衛生と栄養:食生活の安全を確保するため、食中毒予防の新しい技術や知識ならびに我が国の食品衛生の制度を理解する						
第6週	6. 生活環境の保全:現代の生活が地球環境に何をもたらしたかを理解する。地球温暖化に代表される環境の変化が人々の健康に与える影響について学ぶ						
第7週	7. 医療・介護の保障制度:日本で病院を受診したり、介護サービスを安心して受けることができる仕組みについて学ぶ						
第8週	8. 地域保健活動(ヘルスサービスの構造):地域の住民が適切なヘルスサービスを受けることができる仕組みやシステムについて学ぶ						
第9週	9. 母子保健:少子化が急速に進行する中で、我が国の現状と今後の課題について、母親への支援、子どもの健全な発達を保障できるか、今後の母子保健サービスの方向について学ぶ						
第10週	10. 学校保健:学校保健では児童・学生の成長を支援していく責任がある。学校保健制度の法的基盤をもとに、学校保健・安全の制度の構成と内容について学ぶ						
第11週	11. 生活習慣病:がん、心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病が日本人の最大の死因となっており、国をあげて取り組んでいる健康づくりについて学ぶ						
第12週	12. 難病対策:難病の定義と「共生社会の実現」という難病対策の基本理念を理解する 13. 健康教育とヘルスプロモーション(自らの健康をコントロールし改善するプロセス)の概念や仕組みについて学ぶ						
第13週	14. 精神保健福祉:精神障害者の人権尊重が重視され「入院医療から地域生活中心へ」改革が進む施策について学ぶ。自殺や依存症など新たな課題についても学ぶ						
第14週	15. 産業保健:産業保健の目的と働く人を保護する枠組みを理解し、労働衛生管理の仕組みである3管理と労働衛生教育の概略を学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	「健康は個人の財産であるとともに、社会資源です」。誰もが健康に暮らしたいと考えています。自身の健康について考えることで公衆衛生活動の重要性を理解できるでしょう。具体的な事例や実際の事件・事故を通じて理解が深まるように学習していきます。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年		科目名	臨床心理学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験			担当者	小淵 由美子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1:臨床心理学の構造を学ぶことで作業療法支援に活かす方法を知る 2:防衛機制、転移等にていて理解し、臨床心理学的支援に活用できる 3:心理アセスメント・心理検査の種類や使い方を理解する 4:代表的心理療法について理解する 5:その他				評価方法 期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	心理学の知識を基盤にして、臨床心理学の基礎、理論、心理療法等を学び作業療法士として臨床での対象者支援に必要な要点を学ぶ。							
教科書等	臨床心理学概論 サイエンス社	使用器材	視聴覚機器・配布資料その他演習に必要な用品					
週	授 業 項 目 ・ 内 容							実施結果
第1週	臨床心理学とは なぜ臨床心理学を学ぶのか							
第2週	リハビリテーションに活かす心理学・臨床心理学							
第3週	臨床心理学とは 臨床心理学の歴史							
第4週	異常心理学とは何か DSM-5(精神障害の診断・統計マニュアル)							
第5週	職域と社会的連携 公認心理師							
第6週	防衛機制							
第7週	臨床心理支援のキー概念 (共感・傾聴・ラポール・カタルシス)(転移と逆転移)							
第8週	心理アセスメント 心理検査(人格検査・知能検査等)							
第9週	心理アセスメント 心理検査(認知機能検査等)							
第10週	心理療法発表① 行動療法 認知行動療法 来談者中心療法等							
第11週	心理療法発表② 催眠療法・精神分析療法等							
第12週	心理療法発表③ 内観療法・芸術療法等							
第13週	心理療法発表④ 箱庭療法・遊戯療法 集団精神療法等							
第14週	心理療法発表⑤ 自律訓練・ゲシュタルト療法 心理劇・交流分析等							
第15週	まとめ							
授業外学習指示等	作業療法は疾患や障害を踏まえた対人技法が求められます。対象者を理解し、適切な援助技法について学ぶことは、援助者としての自己理解を深め、学生生活を有意義にすることに活用できます。また心理療法について個人発表を予定しています。調べて発表することで一層理解が深まります。発表や心理テストの演習など積極的に学習に取り組みましょう。							

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	基礎作業療法学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院で陶芸、織物、手工芸等を指導	担当者	林 あゆみ	授業方法	演習	単位数	4
到達目標	① 作業の一般的特性を理解する。 ② 作業の過程、作業内容、作業の段階づけを理解する。 ③ 作業目的・効果を身体的・感覚的・認知・心理的・精神面で理解し、活動分析ができる。			評価方法 期末試験 50% レポート 30% 作品 20% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	① 具体的な作品の製作過程を体験し、理解を深める。(作業製作活動) ② 活動分析を行う。(レポート作成、発表)						
教科書等	作業－その治療的応用	使用器材	手工芸品等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	作業活動とは(活動の特性、治療的活用) 作業活動実践: ちぎり絵① タイルモザイク①						
第1週	作業活動実践 ちぎり絵② タイルモザイク ②						
第2週	作業活動実践 ちぎり絵③ タイルモザイク③						
第2週	作業活動実践 ちぎり絵① タイル①						
第3週	作業活動実践 ちぎり絵② タイルモザイク ②						
第3週	作業活動実践 ちぎり絵③ タイルモザイク③						
第4週	作業工夫と段階づけ(活動分析) 作業活動実践 切り絵① ステンシル①						
第4週	作業活動実践 切り絵② ステンシル②						
第5週	作業活動実践 切り絵① ステンシル①						
第5週	作業活動実践 切り絵② ステンシル②						
第6週	作業活動実践 マクラメ① 革細工①						
第6週	作業活動実践 マクラメ② 革細工②						
第7週	作業活動実践 マクラメ③ 革細工③						
第7週	作業活動実践 マクラメ① 革細工①						
第8週	作業活動実践 マクラメ② 革細工②						
第8週	作業活動実践 マクラメ③ 革細工③						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 レポートは、提出期限を守ること。						

令和6年度

授業計画書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	基礎作業療法学	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	病院で陶芸、織物、手工芸等を指導	担当者	林 あゆみ	授業方法	演習	単位数	4
到達目標	作業の治療適応を理解し、作業種目を決定して取り組むことができる。			評価方法			
授業概要	① 障害体験を交え、作業製作活動を実施する。 ② 活動分析を行う。(レポート作成、発表等)			期末試験 50% レポート 30% 作品 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎作業療法 ゴールドマスターテキスト作業学	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第9週	作業内容、作業工程の説明、計画(塗り絵、ペーパークラフト①)・作業活動						
第9週	障害者作品展の見学						
第10週	作業内容、作業工程の説明、計画(籐細工① 陶芸①)・作業活動						
第10週	作業活動(籐細工② 陶芸②)						
第11週	作業活動(籐細工③ 陶芸③)						
第11週	作業活動(籐細工④ 陶芸④)						
第12週	作業内容、作業工程の説明、計画(健康ゲーム)・作業活動						
第12週	作業活動(健康ゲーム)						
第13週	作業内容、作業工程の説明、計画(籐細工① 陶芸①)・作業活動						
第13週	作業活動(籐細工② 陶芸②)						
第14週	作業活動(籐細工③ 陶芸③)						
第14週	作業活動(籐細工④ 陶芸④)						
第15週	作業内容、作業工程、計画 レポート制作						
第15週	レポート発表 まとめ						
授業外学習指示等	障害者作品展の見学						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	多職種連携の理解	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	林 あゆみ	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 職種連携の定義を述べるができる。 2. 多職種連携に参加する職種を挙げ、その役割を述べるができる。 3. 事例検討において多職種連携の視点で、専門職の側面から分析し考察できる。 4. 連携して働く多職種との協力に必要な知識、技術、態度を身につける。			評価方法			
授業概要	多職種連携の観点から、専門職業人として普遍的な知識および考え方・態度について理解し修得するとともに、関係職種との連携および協働により地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献できるような態度を身につける。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ケアマネジメントにおける多職種連携実践事例集	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1部 多職種連携のための基礎知識 1. 介護支援専門員と地域包括ケアシステム						
第2週	第1部 多職種連携のための基礎知識 2. 介護支援専門員に求められるチームマネジメント						
第3週	第2部 多職種連携のための関連職種・サービスの知識 1 介護職との連携 2 リハビリテーション専門職との連携						
第4週	3 医療職との連携 4 看護職との連携						
第5週	5 薬剤とアセスメントのポイント 6 インフォーマルサービスなどの活用						
第6週	7 栄養アセスメントのポイント 8 口腔ケアアセスメントのポイント						
第7週	第3部 多職種連携によるケアマネジメント実践事例 1 脳血管疾患に関する事例						
第8週	2 認知症に関する事例 3 筋骨格系疾患と廃用症候群に関する事例						
第9週	4 内臓の機能不全に関する事例 5 看取りに関する事例						
第10週	6 リハビリテーションおよび福祉用具に関する事例						
第11週	7 入退院時等における医療との連携に関する事例						
第12週	8 家族への支援の視点が必要な事例						
第13週	9 社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例						
第14週	10 状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	作業療法学科 1年	科目名	整形外科学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院勤務25年	担当者	宮原 洋八	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 作業療法士が関わる整形外科疾患と障害を説明できる。 2. 整形外科疾患の症状を説明することができる。 3. 各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。 4. 整形外科的疾患の診断方法の実際を説明できる。			評価方法			
授業概要	整形外科疾患に対する診断・検査・治療の理論と手技を理解する。			定期試験を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準整形外科学	使用器材	たまにプロジェクト(学校器材)使用				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	骨・関節の構造、病態						
第2週	肩関節						
第3週	肘関節						
第4週	手関節						
第5週	関節軟骨の修復、痛み						
第6週	診察、主訴、理学的所見						
第7週	検査、画像、検体						
第8週	保存・手術療法						
第9週	軟部組織、骨、関節の感染症						
第10週	慢性関節疾患						
第11週	四肢循環障害						
第12週	代謝性骨疾患						
第13週	骨腫瘍						
第14週	軟部腫瘍						
第15週	神経・筋疾患						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						